



比内公民館だより

2025 No.99

ひな い

12月

発行/大館市立比内公民館 大館市比内町扇田字庚申岱8 Tel 43-7141 fax 55-3652

第51回比内町芸術文化祭

ステージ発表

比内芸術文化祭は、半世紀の節目を超えて、新たな1歩を踏み出しました。今年もステージ発表には14団体、展示部門には27団体と多くの個人からの出展をいただき、講堂に併設した「みんなのアート展」も、大変好評をいただきました。期間中の入館者は昨年を大きく上回り、無事盛会裏に終えることができました。

また、地域の婦人会、商工会婦人部の皆さんによる食堂開設や、キッチンカーなどの出店をいただき、大変ご好評をいただきました。皆様のご協力に、あらためて感謝申し上げます。こうした芸術文化に取り組む活動が、地域づくりの活力を押し上げてくれるものと期待しております。



みのむし

蓑虫山人と比内町

～明治時代、大館地方を描いた伝説の画家～



縄文 ZINE 編集長 望月 昭秀 氏

11月3日（文化の日）の午後には、比内町芸術文化協会（麓幸子会長）主催の文化講演会を開きました。「蓑虫放浪」の著者である望月昭秀氏（縄文 ZINE 編集長）を招き、放浪の画家「蓑虫山人」の絵日記や秋田とのつながりなどについて講話いただきました。

美濃（現在の岐阜県）で生まれ、14歳で家を出た蓑虫山人が全国を放浪して残した絵日記を紐解きながら、旅先でのエピソードなども紹介。名前の由来は、「家を背負って歩くような姿であったから」とのこと。

麓家に逗留した期間が長く、扇田では29点もの絵を残しています。庭園や楼閣、お祭りや宴席など、生き生きとした交流が描かれており、その中に仙人のような蓑虫本人も登場しています。そのほかに矢立峠や八郎湯町、男鹿市など県内各地で描かれた作品もあり、当時の庶民の生活をうかがい知ることができる貴重な史料でもあります。

約90名の参加者は、熱心に耳を傾け、蓑虫山人の歩んだ人生に思いをはせていました。

比内の校歌を唱おう



懐かしい校歌を歌い合うイベントが11月23日（日）、比内公民館で行われました。主催したのは宮越堯氏（元ふるさと比内会会長）で、会場には約80人の観客が来場。

校歌をリードしたのは扇田出身の演歌歌手・秋湖太郎さんで、閉校した小中学校の校歌8曲と、比内地域の小中学校や支援学校の校歌等8曲を事前にピアノ伴奏で収録し、会場に流しながら参加者と一緒に歌いました。

校歌にはたくさんの思い出があり、自分の故郷を思い出させてくれる、アイデンティティを形成する大切なもの。母校の校歌が始まると会場の空気は半世紀以上前にタイムスリップ。会場の友人たちと母校の思い出と誇りを共有しながら歌っていました。

募集中!



新春書き初め会

とき：令和8年1月4日（日）
13:30～

ところ：比内公民館 第9研修室

定員：小・中学生30人
高校生以上30人
(いずれも先着順)

内容：小・中学生は条幅に
高校生以上は色紙大の
杉板に好きな一字を書く

参加費：小・中学生は100円
高校生以上は200円
(杉の板の材料代)

持ち物：書道道具一式、ふきん、
条幅下敷き(新聞でも可)

編集後記：毎年、雪の降り始めは特別に寒さが身に染みますね。私の冬の相棒はタイツ。昔、広報を担当していた若いころから、雪が降り始めると着用します。周囲にはじじ臭いと言われながらも、風邪をひいて取材に出かけられなくて記事に穴をあけたら大変。分厚い上着を着なくても済むので、薄着に見えるのも◎ですね。(若)